

会 議 記 録 (概 要)

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成 30 年度第 1 回高松市総合都市交通計画推進協議会
開催日時	平成 30 年 5 月 31 日 (木) 14 時 00 分～15 時 05 分
開催場所	高松市役所 11 階 114 会議室
議題	議事 (1) 平成 29 年度取組結果及び 30 年度予定事業について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	土井会長、紀伊副会長、長戸委員、川上委員、前谷委員 (代理：齋藤)、野口委員 (代理：藤本)、芦田委員、宮武委員、古川委員、東原委員、土井委員、檜田委員、塚本委員 (代理：山本)、小川委員、井手委員、桑原委員 (代理：萬藤)、松原委員 (代理：多田羅)、鎌田委員、泉保委員、高木委員、藤岡オブザーバー、都村オブザーバー (欠席委員 2 名)
傍聴者	2 人 (傍聴席：8 席を確保)、報道 2 人
担当課及び連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果

開会

(会 長)

本日は、委員の半数以上が出席しているため、当協議会設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立する。

1 議事

次の議事について協議し、下記の結果となった。

(1) 平成 29 年度取組結果と 30 年度予定事業について

・・・事務局から説明 (資料 1、2)

以後審議

(会 長)

平成 29 年度取組結果と 30 年度予定事業について、質問等ないか。

(副会長)

MMに関しては、公共交通が便利にならないと利用者を巻き込むことが難しく、また、利用者が増えないと公共交通が便利にならない。そのような中、新駅整備やバス路線の再編に取り組んでいくということで、MaaS のコンセプトを、再編実施計画策定や総合都市交通計画を改定する中でも意識して検討を進めて頂きたい。電車・バスのみならず、タクシーやレンタサイクルも含め、利用者への情報提供や、アプリケーションを活用した決済システムなどが一元化されると、すでに導入しているフィンランドのように、自動車の利用率が半分まで減っていくことも可能となる。

ハード整備やバス路線再編を行う上で、MaaS のコンセプトを入れることが、個々を強化することになると考えるので、検討いただきたい。

(会 長)

異なる事業者による交通サービスが繋がるといったことだが、実現するには IC カードの整備が必須であるし、JR とことでんがサービスを繋げていくということが一番分かりやすく、MaaS への近道だろうと思っている。

(事務局)

バス路線再編における検討事項と考えているので、取り入れていきたいと考えている。

(会 長)

モビリティ・マネジメント (MM) については、重要な取組であり、多くの自治体において早くから取組んでいるものの、地方都市においては交通手段が未成熟のままでモーダルシフトを呼び掛けてしまい、うまくいかなかったという過去がある。

高松市においては、公共交通が移動の有力な選択肢として受け入れられる環境が整いつつあり、今こそMMを行う段階である。多額の予算をかけないで、効果的なMMを実証していただきたい。

市民満足度のアンケート結果が2年連続で下がった理由についてはどうか。

(事務局)

地域特性でみると、公共交通空白地域の不満足度が高い。また、自由意見からは、今まで公共交通を使わなかった人が利用の転換を考えた時に、自動車と比較して「公共交通はサービスが低い」と捉えられているような傾向も伺えた。そのため、そこをターゲットとするMMを実施していきたい。

(会 長)

新駅 (三条～太田駅間) のパースを見ると、駅前広場にマイカーは進入できないようになっている。大変な英断だと思うが、どのような御苦勞があったか。

(事務局)

駅前広場内については一般車両の進入禁止としている。安全性を重視し、警察と協議を重ね、周辺地先の方にも丁寧に説明する中で、現在の計画となった。

(会 長)

マイカーを入れないことにより、人が滞留する空間が広く取られており、いいバランスの駅になりそうだ。

(事務局)

整備に当たっては、パースの実現を図りたい。利用者にも「いいものができた」と喜ばれるようにしていきたい。

(委員)

駐輪場は瓦町より収容台数が多いが有料か無料か。

(事務局)

無料である。

(委員)

無料であるならば、駅までの流入は自転車が多くなり、歩行者と自転車が錯綜することになるのではないかと。また、国道の南北横断も安全性が気付きである。新駅（太田～仏生山駅間）については、側道が狭いので計画の段階から安全面に配慮いただきたい。

(会長)

自転車の錯綜については、警察と慎重に協議を行っていただきたい。

(事務局)

国道の南北横断については、北側と南側のそれぞれの駅前広場に駐輪場を設ける計画であり、それぞれを利用してもらいたい。新駅（三条～太田駅間）は、近くに住む方は自転車で、遠方からはバスで来られる利用方法になると考えている。状況を見ながら、安全性を図ってきたい。

(委員)

バリアフリー改正法の可決により、共生社会が謳われ、ホストタウンということで多様性への対応に取り組んでおり、バス路線も、そのような多様性を考慮したものにしてもらいたい。

また、新駅整備やバス路線再編についても、周辺に障がい者施設や支援学校も多いため、十分に配慮してもらいたい。

(会長)

バス事業者においては、運転手不足の課題があると思うが、何か意見はあるか。

(委員)

運転手不足を補うため、給料のベースアップや運行体系の見直しによる労務環境改善、免許取得支援などに取り組んでいる。運転手の平均年齢が50代後半と高齢化が顕著になる中、様々な施策を行い、人材確保に努めている。

また、仏生山駅西側ロータリーだが、今後、仏生山駅を拠点とするバス路線再編に当たり3路線が結節する予定だが、バスバースが1台分しかないので、相談にのってもらいたい。

(委員)

公共交通への需要が高まる中、バスの運転手不足も相まって、減便や、最終便の時間が早まるというのが現実である。運転手不足に対する解決策は見い出せていないようであるが、引き続き対策をお願いしたい。

ターゲットを絞ったMMの実施は良いことである。

自転車道整備に着手ということだが、菊池寛通りの自転車道は路面へのライン表示があるのみで、路上駐車があり非常に走りにくい。高松工芸高校前のように柵を整備するなど、構造的に分離する方が良い。また、左側走行を徹底してもらいたい。

バス路線再編について、スケジュールに複数の再編路線があるが、どのように進めていくの

か。再編を市民に納得して貰いながら進めていくのは大変だと思うが、丁寧にきめ細やかな再編をお願いしたい。

(事務局)

今年度は、仏生山駅周辺をモデルケースとして進めていく。

まちなかループバスについて、現在の40分間隔から30分間隔のパターンダイヤを実現したい。西高線については、木太鬼無線供用開始後、ルートの変更を検討している。運転手不足という課題があるため、既存路線をスクラップしながら、新規路線運行を行っていきたいが、誤解を生まないよう合意形成しながら慎重に協議を進めていきたい。

(事務局)

木太鬼無線は7月に開通する。

自転車道については、五番町西宝線に整備しているが、木太鬼無線開通後の流動、自動車の交通量も見ながら検討したい。

(2) その他

(事務局)

次回、平成30年度第2回協議会について、11月開催予定である。また、市民啓発部会や交通機能・結節部会を開催したいと考えている。日程は改めて調整させていただく。

閉会

以 上